

FCT 第 17 回メディア・リテラシー研修セミナー報告  
福島発・私たちのメッセージ

FCT は、2000 年以降、系統的にメディア・リテラシーを学ぶ場を設定し、ファシリテーターおよび、ファシリテーターを目指す人びとのために、研修セミナーを開催しています。

今回は福島県男女共生センターの共催を得て、東北地方初のセミナーを 2014 年 8 月 2 日（土）～3 日（日）におこないました。

参加者は、首都圏を中心に、青森県、大阪府、京都府などから集まり、大学教員、大学生・大学院生、NPO 関係者、市民活動家などです。このように多様な参加者によるセミナーは、今後、各地域での学校教育、および生涯学習の場において、メディア・リテラシーの実践に即、繋がる事業であると確信しています。

### セミナーの概要

#### 1) 1 日目

セッション 1 (S1) は、『最新 Study Guide メディア・リテラシー入門編』をもとに、メディア・リテラシーとは何か、なぜ学ぶのかについての講義です。

S2 以降、最後の S6 までは、ワークショップ形式で、「参加と対話」をベースにして、メディア・リテラシーの学びを実践するセッションとして構成されています。

S2 は、メディア社会においては、メディアが私たちの「現実」を構成する、という概念を理解し、メディアの意識化を目指すことが目的です。分析対象（テキスト）に、2014 年 3 月 11 日のテレビニュースから、「東日本大震災から 3 年」のトピックを選択しています。ワークショップでは各自、映像を視聴し分析シートに記入し、その後、グループディスカッションをおこないました。

S3 では、映像メディアをクリティカルに読み解くために、その基本となる映像言語を、テレビ CM「マクセル DVD」をテキストにして学びました。

さらに、翌日の映像制作に備えて、オルタナティブ・メディアに着目し、公共広告(PSA)の事例として、カナダ政府主催の人種差別撤廃キャンペーン受賞作品をテキストにして、ワークショップを行いました。

#### 2) 2 日目

2 日目の S4 以降は、1 日目の映像分析を通して学んだこと（「メディアはすべて構成されている」という基本概念や映像技法の役割）を、制作活動を通して自ら検証していくセッションです。メディア・リテラシーにおける制作活動は「見栄えの良い作品」を作ることが目的ではなく、制作のプロセスを通して基本概念を確認することや、メディア社会を生きている自分を見つめ直すなど、自ら「発見」することに主眼を置いています。

テーマは「福島発 私たちのメッセージ」です。前日のニュース番組の分析を通して、主流のメディアでは取り上げられていない視点が確認されたので、それにもとづいて作品のコンセプトを出し合いました。

S4では、映像制作に先立ち、「福島発私たちのメッセージ」として、自分なら何を伝えたいかを考え、意見を出し合い、共通した問題意識を持つメンバーが集まって2グループを編成し、企画案を作成しました。

誰に見せたいのか(ターゲット・オーディエンス)トピックとして何を取り上げるのか、映像をどのように構成するのかななどをグループで話し合います。

S5は、ビデオカメラによる撮影をグループごとにおこない、60秒の作品に仕上げるセッションです。作品の構成は次の通りとなっています。

#### 1班「智恵子が愛した空」

最初は、霞ヶ城公園付近の『智恵子抄』詩碑、青空、安達太良山の映像で、その後、3・11を象徴するような駅前の「がんばろう福島」の旗、「浪江焼きそば」店内を映す。最後に、3年を経ても現存する仮設住宅を撮影して、浪江町民の避難区域ごとの人数をテロップで示すことにより、その現実を伝えました。

#### 2班「大学生HAくん二本松へ行く」

セミナー参加者がニュース分析を通し、同世代の若い人びとが映像に登場しないことに気づき、館内で高校生や若い人びとを対象に、インタビューを企画するという構成です。「3・11で何が変わったのか」を高校生や社会人に問いかけることにより、福島で日常を過ごす若い人びとの貴重な意見や考え方を伺うことができました。

S6では、制作した作品を鑑賞・分析するセッションで、自分たちの作品分析と、他グループ作品の分析をおこないました。

メディア制作を体験した参加者のアンケートの一部を次に紹介します。

「フィールドワークによる製作も学ぶことが多かった。福島県二本松市の立地を活かし、我々が対峙する社会を見直し、製作につなげたことは、メディア・リテラシー同様に社会を読み解くリテラシーにとっても重要なことであったと感じている。そういった観点から、福島県での開催は有意義であったと感じた」

#### 今後の課題

FCT第17回研修セミナーは、世代、職業、社会的立場が異なる多様な参加者が対話を通して、福島の地で、主流メディアが構成する私たちの「現実」をあらためて問い直す貴重な機会となりました。

プログラム通りにセミナーを実施し、2日目の映像制作を体験することにより、オルタナティブ・メディアの必要性も再確認することができました。

FCTにとっても、「東日本大震災とメディア」は大きなテーマでありますので、今後の活動に繋げていきたいと考えています。

また、セミナー会場の福島県男女共生センター館内で、高校生や若い人びとにインタビューすることを通して、あらためて、若い世代の「被災体験」が見えなくさせられていることに気づきました。今後とも、このような若い人びとにこそ、メディア・リテラシーの学びを届けることが必要であると、再認識をしたセミナーでもあります。

ファシリテーター：西村寿子・高橋恭子・田島知之・森本洋介 記録：新開清子